

暑中お見舞い申し上げます。

今年の夏は昨年に引き続き大荒れです。雨が降るところには降る、それが一点に集中して大雨をもたらす。今までの常識では対応できないほどの集中豪雨です。今までの日本であれば、治水事業がきっちりと行われており、堤防が決壊することが少なかったが、近ごろでは戦後すぐの状態と同じことが起こっています。老朽化した危険な橋・トンネルの存在が各地で判明し、撤去などの動きが加速しています。国と自治体への取材では、2014年度に全国で始まった点検で、今年4月までに340カ所が補修や撤去など緊急措置の必要があると判定され、うち73カ所が撤去されたか撤去予定でした。財政難にあえぐ自治体が補修などで維持することを見送るケースが目立ってきています。

2012年の中央自動車道笹子トンネル（山梨県）事故をきっかけに2014年、都道府県や市町村など管理者に5年に一度の点検が義務づけられました。結果は四つに区分され、最悪の「IV判定」では、機能に支障があるなどの理由で緊急措置が必要とされています。国土交通省が公表した2014、2015年度分（計20万7774カ所）と、2016年度分の一部（17年4月の集計段階）の点検結果でIV判定が出た橋・トンネルは340カ所。朝日新聞社がアンケートなどで国と175自治体に取材した結果、このうち15橋がすでに撤去され、58橋・トンネルが「撤去（廃止）方針」でした。アンケートでは、約4割の自治体が今後、利用頻度の少なさや財源不足などから橋・トンネルを減らしていく可能性を示唆しており、自治体が、管理してきたインフラを手放す動きが本格的に始まったことがうかがえます。我が国は、先人が苦労して建設したインフラを「廃棄する」レベルの発展途上国と化しているのです。私たちは、日常的に使用しているインフラについて、「いつまでも、あるもの」と、認識しています。されど、メンテナンスを怠ると使用不可能になるのです。日本経済が悪くなるとモノやサービスを生産する力が削がれていく状況が現在の閉塞感が充満している原因であろうか？人口動向の推移をみれば、全体的な経済のパイが小さくなっていくのは致し方ないところです。そんな中でも経済が順調に成長していますと不安がなくなります。来るべき人口減の時代に向けて今から手を打って行かなくてはなりません。

暑さ厳しい折、ご自愛下さい。